郡市医師会長プロフィール

北広島医師会

小柳 崇先生



この4月に北広島医師会の新会長に就任された小柳崇先生は昭和13年10月2日、新十津川町のお生まれです。昭和40年に札幌医科大学を卒業され、同大学の内科学第二講座の同門で、循環器内科、脳卒中後のリハビリテーションを専門とされています。北広島市大曲の地に「道央病院」を開院されたのは昭和53年11月1日。先生は早い時期からリハビリテーションの重要性を見通されて、脳卒中の急性期から慢性期までを一つの流れとして捉え、早期にリハビリテーションを開始できる施設を目標として、札幌にも近く自然に囲まれた現在の地に開院されました。その後、目標に向かって着実に歩まれ、各方面から高い評価を受けていらっしゃいます。

先生はいつもお元気で、笑顔が大変素敵な方です。健康維持の秘訣を伺うと、過食しないこと、動物性脂肪の摂取を制限することのほかに、ゴルフで歩くことが健康の源とのことです。

さて、そのゴルフですが、「趣味は?」とお 何いすると、即座に「ゴルフです」とお答え になるほどお好きなようです。昨年は98回 (!!)もゴルフに行かれたとのことで、これま でに九州指宿やハワイでもゴルフを楽しまれ たことがあるそうです。腕前もなかなかのよ うですが、健康維持のためにわざと歩く距離 を長くされることもあるとか……。

最後に、新会長として今後目指される医師会像を伺いました。「会員が皆仲良く、お互い助け合っていけるような温かい雰囲気の医師会であってほしい。医師会の会合には一人でも多くの先生方に出席してほしい」と語られ、さらに「小さな医師会ではありますが、会員一同力を合わせて頑張っています」と付け加えられました。

会長に就任されて毎日がご多忙なご様子で すが、健康に注意されて活躍していただきた いと思います。

> 北海道医報通信員 北広島医師会理事 相原 稔彦

留萌医師会

川上 康博 先生



留萌医師会で、前会長の渡部英次先生の後任として川上康博先生が新会長に就任されました。川上先生は留萌市内で内科、消化器科を中心にご開業され、市内の内科系開業医の中心的役割をされるとともに、渡部前会長の右腕として長らく医師会の副会長を務められその手腕を評価されて新会長に推挙されました。

先生は、日々の診療や医師会活動のほか、 青少年の剣道の育成に積極的に協力するなど 幅広くご活躍されています。数年前、一時体調 を崩された時期もありましたが、以後、日常生 活を厳しくコントロールされてお酒もたしな まず、血液データは医師とは思えないほど(?) 正常値を保たれて健康を回復されました。

医師会長に就任されてからは、医師会ホームページの作成、医師会メールの配信、事務局や会計の整備など医師会の新体制造りに向けて精力的に活動されており、リーダーとしての指導力を発揮されております。 われわれもできるだけ新会長をサポートしなければと痛感するこのごろであります。

留萌医師会は会員数30名ほどの小さな医師会ではありますが、ここ数年40代の新規開業の会員が増加しており、世代交代が進んできております。川上新会長は若手のリーダーとしてもご活躍願いたいと医師会員一同期待している次第であります。

北海道医報通信員 留萌医師会監事 竹内 克呂

美唄市医師会

志智 重之 先生



平成19年4月より、美唄市医師会会長に市立 美唄病院院長 志智重之先生がご就任されま したので、ご紹介いたします。

先生は、昭和22年7月兵庫県にて誕生され現 在59歳です。

昭和48年岐阜大学医学部をご卒業され、昭和53年3月まで、国立札幌病院の外科医としてご研鑽を積まれ、北大第一外科入局後、昭和53年4月に市立美唄病院外科医長に着任されました。平成7年に市立美唄病院副院長、平成8年保健センター所長、平成17年10月に市立美唄病院院長として就任され、現在に至っておられます。

美唄市医師会では、理事、参与等の要職を 歴任後、本年4月会長にご就任され市立美唄病 院の院長として、日常の診療業務はもちろん のこと、病院の経営、マネージメント、医師 会長としての職務のほかに、現在市立病院と 労災病院の統合に向けて、大変多忙な毎日を 送られております。

医師会のゴルフコンペにて、一度同じ組でプレーさせていただいたとき、豪快なドライバーショットと、グリーン上でのラインをよむときの慎重さに感心させられました。先生のご性格の一端をかいまみたような気がいたしました。

現在、美唄市の地域医療は、医師不足を中心に問題山積であるとともに、市立美唄病院と労災病院との統合に向けて、大変革の時期であります。その舵取り役の大任を果たせるのはまさに、志智先生をおいていないと痛感しております。

わが街は、アルテピアッツア美唄、ピパの 湯ゆーりん館、美唄焼き鳥、とり飯、べかん べ最中等々さまざまなものがあり、魅力のあ ふれた街です。札幌からJRで33分ですし、道 央自動車道のインターチェンジも近く、札幌 から十分通勤可能な立地条件です。美唄の地 域医療に参加いただける先生がおられました ら、是非ご協力をお願い申し上げます。 美唄市の紹介を含めまして、志智先生のご 就任の報告をいたしました。

> 北海道医報通信員 美唄市医師会理事 中坂 光宏

自画像

深川医師会

吉本 勲



そもそも私は当初から医者を志したわけで はない。大学の先生にでもなろうと思い、京 都のある大学の文学部に進学したのである。 ところが卒業を控え、大学院を目指して勉学 にいそしんでいる最中(大していそしんだわ けでもないが)、母親が急死した。 父もすでに 老齢のため、雄図むなしく挫折して卒業証書 一本を胸に、悄然と故郷の北海道深川町(当 時) に帰って来たのである。その後はブンガ ク部教授は諦め、多少の曲折ののち札幌医科 大学に入学し、昭和40年に卒業した。専攻は 精神医学である。開業したのは昭和55年であ るが、数年経って身辺がやや落ち着いたころ、 父方の叔母に「そろそろお謡いでもなさいま せんの」と勧められて思わずぎゃっと飛び上 がりそうになった。私の拒絶反応はもちろん 謡曲に向けてではない。医者特有の、という か、現実社会と遊離し地域住民との触れ合い も極力避け、余暇はすべて趣味、風流に身を やつす、というような回避型生活がどうも私 の性分に合わなかったのである。

ところで、ある世論調査によると国民の多くは医師会については何も知らず何の関心もなく、またどちらかといえば嫌いだ、という結果が出ているそうである。その通りであろうと私も思うが、このことの幣に対する責任はやはり医者の側にあるとしなくてはいけないであろう。われわれは生き方を変えなくてはいけない。地域社会に向かって開かれ、地域住民とともに生きる医師像を創出する責務がわれわれにはある。

そこで私自身のことであるが、肩書きは あってもそれに見合う仕事は何一つしない、 というのもこれまた私の性分に合わないの で、やはり何事かはなす必要があるであろう。 また私とて趣味とか家庭とか持たないわけで はないが、そんなことは書いてもつまらない から私は書かない。これで終わりとする。

十勝医師会

柏木 道彦 先生



平成18年12月に十勝医師会の定時総会が開催され、第5代の会長として柏木道彦先生が満場一致で選出されました。

柏木先生は昭和21年帯広市の生まれで、昭和46年に北海道大学医学部を卒業後、医学部第三内科に入局して消化器内科を専攻されました。道内各地の病院勤務の後、当時無医地区であった幕別町札内の住民に請われて、昭和58年9月同地に内科医院を開設し、現在に至っております。

平成18年に無床となるまでの長い間、町内 唯一の有床診療所を運営され、また町の嘱託 医も引き受けるなど、地域医療に貢献されて きました。

趣味はゴルフで、自宅で日々の鍛錬を欠か さず、体力とゴルフのスコア維持に励んでい るようです。

医師会活動にも熱心に取り組まれ、平成3年4月に理事、平成7年4月には早くも副会長となり6期12年務められた後、満を持して会長に就任されました。

十勝医師会は、帯広市を除いた十勝支庁管内18町村という、岐阜県全域に匹敵する広大な地域に120名ほどの会員が分布していて、帯広市のベッドタウンという都市近郊型から、農村地帯、そして多くの過疎地域を抱えています。政府の医療費抑制政策の中で、公立病院の医師および看護職員不足による過労や経営危機をはじめ、少子高齢化に伴う種々の問題が都会以上に顕在化してきています。

新会長の人柄は「沈着冷静」、会務にも精通しておられますので会員の安心感は抜群ですが、ますます厳しさを増すであろう医療情勢の中、健康に留意されながら、会員の先頭に立って活躍していただくことを期待しております。

北海道医報通信員 十勝医師会理事 越智 仁司



本号附録「あなたの年金記録を もう一度チェックさせてください」について

◇情報広報部◇

今般、マスコミ等の報道で大きく取り上げられ、大きな社会問題となっている年金記録について、北海道社会保険事務局から本会会員に対して下記チラシにより周知したい旨の申し入れがあり、北海道医報に同封してお送りすることとしましたのでお知らせいたします。

記

あなたの年金記録をもう一度チェックさせてください ~ 被保険者・年金受給者の皆様へ ~

厚生労働省・社会保険庁